



米国解脱教会創立 70年・解脱霊廟開眼50周年 奉祝 第140回米国秋季大祭

日米会員が一堂に会し、節目を祝い、新たな発展を誓う

米国解脱教会創立 70周年・解脱霊廟開眼 50周年を記念する第 140 回米国秋季大祭が 9 月 1 日、サクラメント御霊地において開催され、日本から参加した会員 65 名を含む総勢約 300 名が大祭に参列し、節目を喜び合った。



五智聖堂前にて日本からの会員が記念撮影



第 2 部解脱霊廟祭祀の儀・真心からの天茶供養を捧げた



第 3 部柴燈護摩の儀・瀬部明開教師が導師となって厳修



大祭前日に祝賀会が催され、日米会員が交流を深めた



第 1 部式典・米国解脱教会女子青年による献花

米国解脱教会布教の歩みは、1942 年清田憲佑（本名・イネ）氏がツールレイク収容所に布教を展開し、岸田英山氏の渡米により、学びの拠点である米国解脱教会が設立され、今日に至る。

この記念すべき式典に際して米国解脱教会では、ジョイス・リード理事長を中心に 1 年前から何度も会合を重ね計画を練り、多くの会員が大祭式典まで準備活動に奉仕した。

大祭前日の 8 月 31 日夕刻からは日本からのツアー団とゆかりのある会員を歓迎する祝賀会が宿泊先のホテルにて米国会員主催で開催された。会場には歓迎と友情の気持ちを込めてロサンゼルス教会会員が制作した千羽鶴と、ロサンゼルスのリトル東京の七夕祭りにおいて星のロマン部門と一般人気投票で 1 位を獲得し 2 冠を達成した七夕飾りが彩を添えた。

ジョイス・リード理事長より「解脱の道を開いてくださった、金剛さまの愛が喜びに包まれています。今夜は共に楽しみましょう」と歓迎の挨拶があった。また、米国会員らが作詞し、作曲家の杉本龍之氏（千葉木更津支部長）が手がけた米国教会の歌「My Gedatsu Life」の披露があった。さらに、創立 70 周年を祝って、70 年の歴史をビデオで振り返り、先人のご尽力に思いをさせ、日米会員が懇親を深めた。

翌 1 日の記念の大祭式典は午前 9 時 30 分より第 1 部・五智聖堂の儀が行われ、ヒサト辻村氏が司会を務め、英語による拝礼行事に続いて、尊者のみ声を拝聴、女子青年らによる献花と献天茶、可愛らしいお稚児行列と進み、万霊大供養を厳修した。講話に立った岡野英夫米国総長は「世界は新しい時代へ移行しようとす

る変革の時を迎えています。来るべき時代への変化に必要なものは絶対感謝と無償の愛です。相手を輝かすことができる人は必ず自分が輝くことができます。神の御心のままに共々に明るく豊かな人生を歩んでまいりましょう」と述べた。

この式典において、ジャクソン・伊藤米国解脱教会理事に対して、長年にわたる功績が讃えられ特別表彰となり、プレゼントが贈られた。

第 2 部・解脱霊廟祭祀の儀では、一新された祭壇を迎え、新たに 9 柱の霊魂が祭祀された。続いて不動明王像前において第 3 部・柴燈護摩の儀が厳修され、今回初めて日本の会員の柴燈護摩への申し込みがなされ、一人ひとりの深甚なる祈りが捧げられた。

直会は、旧聖堂であるソーシャルホールにて行われ、今回ツアーに参加した全員が笑顔と喜びをわかちあった。

参加者からは米国会員のスタッフの働きや式典について、「とても感動した」「先人先覚者の苦勞が分かり、改めて勉強になった」などの声が聞かれた。

黒姫出張所

黒姫工場で火入式執行



8月20日、長野県信濃町の黒姫出張所において天茶法葉加持の儀及び工場火入式が執り行われた。

当日は岡野英夫理事長はじめ合木義志天茶耕作者組合長ら天茶農家と職員が参列し、午前10時30分より天茶法葉加持の儀、続いて午前11時30分より第1作業棟にて火入の儀、天茶の撒き供養が行われた。その後の直会では、岡野理事長より「天茶の功能」についてと黒姫出張所職員に対して日頃の努力に対する労いの言葉がけがあった。

かたばみ会特別講座

焦らず、根気強い子育てを



8月18日、東京女性部の女性講座かたばみ会特別講座が本部道場地下ホールにて開催された。今回は「子育て」をテーマに、子育て中の夫婦や将来親になる若い世代が中心に参加した。まず5人の子育てをしている南新宿支部の廣川陽子さんが体験を発表。続いてセラピストでもある岩田豊美指導員から、子供の心の発達段階に応じた親の関わり方の重要性を学んだ。その後、円座になり質疑応答が行われ、日頃の育児の悩みに岩田指導員が丁寧に答えながら、焦らず根気強く子供と向き合うことを伝えた。

8月度研修・夏季青年コース&ジュニア with ユースコース

夏の御霊地で青少年が学ぶ



8月5日から8日、御霊地において、夏季青年コースが行われ、9日から11日までジュニア with ユースコースが開催された。

青年コースでは、9日から続くジュニア with ユースコースに向けた準備を行うなど、み教えの学びと共に、リーダー役として活動し人に喜んでもらえることを味わえるようプログラムが組まれた。

初日、午後1時より開講式を行った後、三浦純教育部長より「法友」をテーマに、

「人と縁の大切さ」について語られた。

2日目は小林彰二御霊地管理部次長より「ご皇室と金剛さま」と題した講話の後、ジュニア with ユースコースで使用するキャンプ場等の下見と、担当に分かれて計画を練った。

3日目は、朝8時に伊勢原へ向かい、大山阿夫利神社の参拝登山後、解脱研修センターに戻り健康指導の足もみと掌心法を学び、登山での疲労を癒した。

最終日は、ジュニアの夏祭りで使う山車の清掃作業を行い、閉講式では毎晩練習してきた和太鼓の曲を全員で演奏し、一人ずつ感想や誓いが語られ、青年コースは終了となった。

ジュニア with ユースコースは、9日午後1時に開講式が行われた後、御霊地・お山でレクリエーションを行った。その後、北本市野外活動センターへ移動し、



夕食のカレー作りを行い、参加者たちは仲間と協力することの大切さを学んだ。10日は、都幾川・三波溪谷へ車で移動し、川遊びを楽しんだ。その後、御霊地・第1駐車場で夏祭りが行われ、バーベキューや焼きそば等を堪能した後、山車を囲んで参加者みんなで盆踊りを踊った。

最終日は、学習の時間として「命のかがやき」をテーマに講話を受け、御霊地を参拝。その後、ピザ作りを体験し、多くの笑顔が見られた。

青年コース参加者からは、「今回の経験を青年部活動に活かしたい」などの声が聞かれ、次代を担うリーダーとしての活躍が期待された。

8月度研修・第159回健康学園

太陽の心で相手と関わる喜びを

8月24日から25日、解脱研修センターにおいて第159回健康学園が開催され、全国から総勢71名が集い学んだ。

初日10時、小田敏郎相談役の激励の挨拶により開講。呼吸体操で心身をほぐした後、解脱有食法の講義では、身土不二や一物全体食など日本人古来の食のあり方を現代の食生活に生かしていくことの大切さが語られた。特に天茶について、体験集や科学的な側面から効用の再確認がなされた。昼食後、会員実践目標を受け、

三浦純教育部長が「太陽の心で生きよう」をテーマに講話。その後、足心道と体位矯正法の実習が行われた。

2日目、解脱三分間体操、矯正法の一般体操と掌心法、「立教100年に向けて」と題した西脇武利教育部次長の講話の後、体位矯正法と足心道のそれぞれのクラスに分かれ実技習得に励んだ。体位矯正法では渡辺孝彦顧問より、「矯正法は行う者が治してやるのではなく、受ける本人の身体が自身で治る方向に動く。そ



こに関わらせていただくという姿勢が大切」という主旨の話があった。

参加者からは「技術習得の実感があった」「心がけの大切さを学んだ」「家庭・支部において、すぐに実践していきたい」などの積極的な感想が多く聞かれ、健康指導の技術を活かし太陽の心で人と関わるべく、お互いに士気を高めていた。

中国第2教区・第41回広島原爆犠牲者慰霊供養会

共存共栄の世界の実現に向けて

中国第2教区では8月18日、第41回広島原爆犠牲者慰霊供養会を広島平和記念公園内にて開催し、本部より安達武寿指導員が出講、中国第1教区からも多数が駆け付けて総勢103名が参列した。

行事に先立ち、安達指導員、教区役員と各支部長は、広島平和都市記念碑および韓国原爆犠牲者慰霊碑にそれぞれ献花。また、韓国原爆犠牲者慰霊碑では周辺一帯の天茶の撒き供養を行った。

供養会は原爆供養塔前にて正午より開式となり、猪子恭一副担任部長が開会挨拶。続いて、馬屋原治担任部長を先頭に「広島原爆犠牲者之霊」「広島原爆被災鳥獣虫魚之霊」「広島原爆被災樹木草之霊」「広島原爆被災土精萬霊」に礼拝後、折り鶴を献納し1分間の黙祷を捧げた。

瀬尾正照教区長による諷誦文奏上の後、心経21巻の天茶供養を厳修した。安達指導員の「自他の生命を尊重し、



共存共栄の世界実現に向けて精進して参りましょう」との挨拶に続き、中国第1教区の石原眞二教区長の挨拶をもって供養会は終了した。

供養会終了後、有志が公園の周囲を流れる旧太田川へ天茶の撒き供養を行った。

中部圏域・ダリア女子会

イキイキと女性が生きるために



中部圏域・ダリア女子会では8月4日、中部道場にて「イキイキと女性を生きよう」と題して、女性の勉強会を開催し76名が参加した。今回は、助産師や保健師として経験豊富な東京第1教区八王子支部の阿曾沼里奈さんを講師に迎え、命の尊さや女性が生まれながら持っている魅力について学んだ。阿曾沼さんは、現場で目にした流産や死産など辛い現実が少なくない現状や、生まれたわが子を無条件に愛する親の姿について述べ、自分の存在がいかに恵まれ尊いものであるかを実感し涙を浮かべる参加者もあった。

午後には世代別のグループディスカッションと参加者の子供向け企画が行われ、どちらも大好評で参加者全員が満足する一日となった。

愛知教区・豊橋陸軍墓地で供養会

真心から慰霊の供養を厳修

愛知教区では8月18日午後1時半より、豊橋陸軍墓地において、豊川海軍工廠関係犠牲者並びに豊橋陸軍墓地に祭祀されている霊魂の供養会を、遺族(八七会)を始め、本部から服部宇之輔指導員が出講し、会員多数参列の下に執り行われた。



昭和20年8月7日の空襲により豊川海軍工廠の関係者2500名余が即死。また豊橋陸軍墓地には、日清、日露戦争以後の戦没者が祀られている。地元である愛知教区では、毎年夏に供養会を開催している。

供養会では、まず全員で国歌を斉唱した後、青年部による献納の儀、献花の儀、女性部による献天茶の儀が執り行われた。続いて、政年均教区長が諷誦文を奏上した後、参加者全員で般若心経を唱える中、各墓へ天茶の撒き供養を捧げた。

北海道々南教区・女性大会

女性の役割を研鑽



北海道々南教区では8月25日、「女性としての役割」をテーマに女性大会を札幌道場において開催し、本部より岩田豊美指導員が出講、100名の参加があった。

大会は、まず渡辺ゆき江茶志内支部長が、前支部長である夫の闘病中、支部会員が行った真心からの平癒祈願についての喜びや、支部長継承後、「身を粉にして働け」との声が心に響き、懸命にお役目に精進していることの体験を発表した。

岩田指導員は「子育ては3歳まで母親が語りかけることが大切」「自分の心の癖を知り、切り替える努力をしていけば心安らかな生活が営める」と講話。終了後は、岩田指導員の個人相談を受けて晴れやかに帰途に就く参加者が多く見られた。

九州教区・3地区合同女性のつどい

模擬茶話会で絆を強め

九州教区では7月7日、昨年について「もう悩まない。そうだな茶話会へ行こう」と題し、3地区合同の女性の集いを鳥栖市民文化会館にて開催し、100名が集った。



弘中由治教区長が女性の役目の大切さと自身の天茶供養の体験談を述べた後、女性部3名が体験発表。昨年に続いて行われた模擬茶話会は「あなたは天茶供養でどう変わった」をテーマに、長めに設けた時間が足りなくなるほど熱気が高まっていた。

そして日野富美本部教務員の総評を受け、次回は青年部と子供会との合同開催を目指すことを誓った。

参加者アンケートでは、模擬茶話会では他支部会員との絆を強め、お互いに体験談を話し合うことで反省することができ、励みにもなったと、感謝と喜びの声が多く寄せられた。

新潟教区青年部・コラボレーション IN 長岡

青少年と一緒に活動できる場をつくる

新潟教区青年部は8月25日、新潟県長岡市内の老人ホームにてボランティア活動を行った。この活動は、教区において青少年と一緒に活動する場を作りたいという願いから企画されたもので、今回、日頃から新潟教区の足もみ活動で縁ができた老人ホームのご厚意により実現することができたもの。

当日は、新潟教区の青壮年と応援に駆

け付けた北関東ブロック青年部員合計18名が参加した。

老人ホームでは、足もみ活動をはじめ窓ふき等の清掃や車いす整備を行った。こうした活動を通じて、参加者一人ひとりが利用者や職員の為になることは何かを考え自発的に行動することの大切さを学び、施設職員さんの苦労等を感じることができた貴重な体験を得た。また施設



職員からは「普段できないところを手伝っていただき、ありがとうございました」との感謝の言葉を受けた。その後、参加者全員で昼食とボウリングにて参加者同士の懇親を図り、来年の三聖地巡拝錬成に向けて絆を強めた。

長野上諏訪支部・新築落慶

新道場で発展を期す



長野上諏訪支部では、6年前に焼失した支部道場含む自宅の再建を果たし、8月11日に本部より松田佳高指導員出講の下、遷座祭、道場落慶・記念感謝会

を開催した。遷座祭では、土田ちか支部長の祝詞奏上後、支部幹事、土田家の家族らでお軸3体、お社等を旧道場より新道場へ無事に奉安し御神前が整えられた。道場落慶・記念感謝会は、白木好雄甲信教区長はじめ緑ある会員が参列し、土田支部長の祝詞奏上、玉串奉奠、拝礼行事と進み、松田指導員の記念講演。終礼行事後に白木教区長発声の万歳三唱で締めくくられた。

土田支部長は、「道場を再建できたのは、皆様方のお蔭さま。支部発展のために、気軽に寄っていただける明るい道場を目指し恩返ししていきたい」と語っていた。

滋賀教区・家族スクール

子供から元気を頂いた1日

7月28日に滋賀教区は、令和初の家族スクールを多賀町高取山ふれあい公園にて開催し、子供20名を含む総勢65名が参加した。

「挨拶をしよう!」を基本テーマに教区内の会員同士、親



子の触れ合いを中心に意識して取り組んだ。アイスブレイキングの後、前々回にピザ作りが大好評だったことから、今年も再挑戦。個性あふれるトッピングをした後、ピザ窯が自宅にある太田豊地教区長に焼いてもらい、参加者全員で食事を楽しんだ。

午後は子供全員で全長40mの人工グレンデで遊び、夏の定番かき氷とスイカを食べた。子供たちの元気一杯の姿から、大人たちが逆に元気をもらった1日となった。最後に感謝を含めて真心から施設の掃除を行い、家庭でも誰にでも元気に挨拶をしようと約束して終了となった。

京都教区・健康指導研修

健やかな家庭づくりのために



京都教区は7月28日、関西道場にて「健康や身体のことを知り、家庭や地域で活かせるようにする」を目的に健康学園を開催。本部より

津村和範指導員が出講し、29名が参加した。

午前10時より、開会宣言、拝礼行事、会員各家の先祖供養、尊者のみ声拝聴と進み、田中英次教区長より挨拶があった。その後、津村指導員より「呼吸法、有食法」についての講話があり、昼食を挟み、足もみ実習が行われた。

最後に質疑応答が行われ、参加者の日頃の疑問や悩みに出講者が答えるなど有意義な一日となった。

スポットライト

地域、社会へ貢献



雑司ヶ谷支部

高篠 栄子さん (65歳)

文京区で高齢者や産前産後の母親のサポートをしている高篠栄子さんの活動が、このほど区の地域情報紙『文社協だより』に紹介された。高篠さんの活動の一つは産前産後の母親の家事などを手伝える「いきいきサービス」、二つ目は子供の送迎や一時預かりをする「ファミリーサポート」。

活動のきっかけは、娘さんがドイツで周囲のサポートを受けて無事に出産したという体験にある。この話を聞いて「核家族化が進んでいる日本でも、自分にできることがあるのでは」と思い、講習会に参加。4年前より活動をしている。

中でも子育てで手一杯のお母さんたちを支えるために、用意された食料で食事などを作り提供することは、段取りと手早さが要求され、精神的にも厳しい面もあるが、「今風の調理の仕方とか、自分なりに勉強になる」「活動を通して自分が元気をもらえる」と高篠さん。「うちの子は人見知りだけど、高篠さんは大丈夫でした」といった声が多く寄せられている。地域に根ざした高篠さんの活動を大いに期待したい。